

研修報告書

施設長	課長	主任	報告者

1. 研修名	熊本市老人福祉協議会 「生きる支援」		
2. 参加者氏名	デイサービススタッフ一同		
3. 日時・場所	平成 26 年 3 月 18 日(火)19:00~ メルパルク熊本		
4. 研修内容	「内容」「感想」「その他」欄は、内容に応じ記入欄の調節をして下さい		
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>			
1. 開会	<hr/>		
2. 会長挨拶	<hr/>		
3. 講演「生きる支援」 講師 夢のみずうみ村 代表 藤原 茂氏	<hr/>		
4. 閉会	<hr/>		
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>			
5. 感想	<hr/>		
今現在、デイサービス・デイケアどちらにおいても実施されているサービス内容は画一的である。それを「全国標準メニュー」と呼ぶ。内容は、皆さんご存知のように朝からデイに来て、体操・入浴・食事などの一連のメニューをこなすありふれたものだ。			
はたして、介護保険適用の在宅サービスがこれでいいのか?当然良くはない。国の方針も予防に向けて力を取り組みや要支援者のサービス利用中止など案が出されている。では、これから生き残るためにはどんなサービスの展開が必要なのか。それは「質」を評価できるサービスの提供にある。			
「質」が評価できるサービスとは、今回の講師である藤原氏の夢のみずうみ村にあげられるように個性のあるサービス展開なのではないかと私は考える。			
例えば、夢のみずうみ村では、自立支援に重点を置き、利用者が持つ有能感(意外とできる、まだ捨てたもんじゃないと感じること)を引き出せるスタッフこそがプロの介護職だと言っている。それは、何も難しい事ではなく、夢のみずうみ村方式をという名の環境(ハード面)をフルに生かして、スタッフがどれだけ過介助にならないかがカギになる。利用者が自分で選び、自主的に活動することで、AD			

L (IADL) が向上する。現に夢のみずうみ村では、要介護状態は確実に改善出来ているとのこと。

特に要介護3の方に関しては、70%の方が改善しているという実績がある。

上記の事を当施設において考えれば・・・

ハード面を主体とした自立支援の「夢のみずうみ村方式」+科学的根拠を持って利用者に直接的に関わる「竹内理論」=「みかんの丘独自」の自立支援型デイサービスの完成を意味するのではないかと感じた。

6. その他

7. 添付資料